

福井県管理河川 第2回嶺北ブロック減災対策協議会 議事概要

日時：平成29年12月21日（木）10：28～11：38

場所：福井県国際交流会館2階 第1、2会議室

【出席者】

福井市 東村市長、 大野市 岡田市長、 勝山市 山岸市長、 鯖江市 牧野市長、
越前市 奈良市長、 坂井市 坂本市長、 永平寺町 河合町長、 越前町 内藤町長、
福井地方気象台 内藤台長

近畿地方整備局 中村福井河川国道事務所長、松島九頭竜川ダム統合管理事務所

福井県 土木部 辻部長、 安全環境部 木村危機対策監、 福井土木事務所 宮下所長、
三国土木事務所 竹内所長、 奥越土木事務所 勝木所長、 丹南土木事務所 小川所長
（以下代理出席）

あわら市 小嶋土木部長、 池田町 長谷川産業振興課長、 南越前町 藤原副町長

【マスコミ】

福井新聞、日刊県民福井

【議事概要】

（1）福井県管理河川 嶺北ブロック減災に係る取組方針(案)について

【構成員からの主な発言（発言順）】

《取組方針に関するコメントなど》

＜福井市＞

- ・取組方針は、ソフト対策が中心なので、ハード対策について、水位周知河川以外の河川も含め、フォローアップで報告するようにしてもらいたい。

＜大野市＞

- ・河川管理の減災において、砂防・治山は有効と考える。
- ・大野市内の九頭竜川、真名川をいずれも水位周知河川に含めるよう検討してもらいたい。

＜勝山市＞

- ・勝山市において、一番問題なのは市街地を流れる大蓮寺川であり、洪水予測で一番重要なところであるため、検討してもらいたい。
- ・ダムからの放流タイミングにより、どのように増水するか、警戒の恐れが出てくる場合もある。
- ・河川の雑木伐採は、洪水対策としては一番重要と考える。

＜鯖江市＞

- ・当面の対策として、浚渫、立木伐採を取り組んでいただきたく、立木伐採は、景観ではなく、

安全重視で本当に危険な箇所をやってもらいたい。

- ・河川改修の進捗状況と今後の方向について明確に示していただきたい。
- ・今回の台風をみると、計画当時と状況がだいぶ変わっていると考える。
- ・フォローアップのなかで、当面の課題、今後の計画を示してもらいたい。

<あわら市>

- ・災害発生時の初動体制として、自主防災組織の設立促進を進めており、129 の自治会のうち、105 の自治体で設立が完了しており、各地区で自主防災訓練が行われ、市としても金銭的、物的支援を行っている。

<越前市>

- ・台風 21 号は、解散総選挙の投票日、市長選挙の投票日と重なり、通常ならできるパトロールの人員配置が難しかった。
- ・吉野瀬川、服部川、鞍谷川が避難勧告を出す河川のため、フォローアップをお願いしたい。

<坂井市>

- ・地域住民の避難を確実に進めるため、洪水浸水想定区域が公表された後に逃げ遅れがないよう関係機関と連携を図り、効果的なハザードマップを作成し、地域住民の方へ周知していきたい。同時に近隣の市町と連携を図る広域避難も進めていくべきと考える。
- ・要配慮者利用施設の避難確保計画の促進、災害時の情報共有できる体制充実を図り、水害における減災対策に鋭意努力していきたい。

<永平寺町>

- ・自主防災組織が各区にあって、小学校区で自主防災組織連絡協議会を作り、避難訓練等の取り組み、自助共助の取り組みを実施している。
- ・防災士の資格取得啓発により、取得者 280 名となっており、今回の情報を提供していきたい。
- ・防災意識が高まれば高まるほど、ハードの面での住民の要求が増えるので、計画的に対策をお願いしたい。

<池田町>

- ・自主防災に関する取り組みにおいては、集落毎に「ご近所防災計画」の防災計画を作成し、自助公助の取り組みが行えるよう、順次進めている。
- ・今年 10 月の台風で、足羽川の稲荷地係において氾濫危険水位まで上昇したが、池田町内の県管理河川は、水位周知河川になっていなく、洪水ハザードマップが作成されていないため、今後、洪水ハザードマップの作成の検討をしてもらいたい。

<南越前町>

- ・10 月 22 日から 23 日台風 21 号で、今庄観測所の観測史上最大の連続雨量を記録し、土砂流出、倒木、停電、家屋倒壊等の被害に見舞われた。

町は、消防署員、消防団員も多数招集し、水防活動に当たった。

- ・情報発信の基盤として、昨年度、防災無線をデジタル化した。

また、全世帯の93%で個別端末を配備し、確実に使用している。

- ・防災士の会を本年9月に設立し、防災に関する啓発活動、防災教育の拡充を行っている。
- ・Wi-Fi環境整備を今年4箇所、30年度3箇所設置を進めていく。

<越前町>

- ・10月の台風で、越前町においても大きな被害が発生し、天王川、和田川流域が危険な状態となり、町村合併後、新しい越前町となって、はじめて避難勧告を発令した。
- ・その日は、衆議院選挙開票日と重なり、選挙対応職員以外全員を出勤させて、避難所開設に当たらせた。
- ・自主防災組織のカバー率を上げて、訓練や意識を高めていく指導を行っていききたい。
- ・ハード面では、特に砂防ダムの効果が大きいので、対策を考えてもらいたい

<気象台>

- ・洪水危険度分布、予測値を行っており、台風5号において相関がよいことが分かりました。
タイムライン作成する際の基準水位設定の際の参考にしてもらいたい。

<福井河川国道事務所>

- ・ハードについては、河川整備計画に基づき、着々とやっている。
- ・防災減災の取り組みは、平成27年度に九頭竜川・北川減災対策協議会を設立し、取組方針を策定した。
- ・県市町に対する国交省の役割は、災害時における対策車両の派遣、リエゾン派遣があげられる。
- ・災害対策用機械の操作、事務手続きの操作訓練を平成24年から実施しており、県、市町職員の方に訓練を受けていただき、迅速に対応できるよう体制づくりを図っている。

<九頭竜川統合管理事務所>

- ・ダムの運用で防災操作を最優先に行い、計画規模を超えた運用ということでダム計画規模を超えた時の検証を行っている。